

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>



### スマートキッズプラス亀有

「水の中を描く班」「地面のうえを描く班」に分かれ取り組みました。それぞれの場所に関連して、子どもたちが好きな生き物や乗り物などを描いていき、彩り豊かなポスターが出来上がりました。

## かかわりによって生まれるインクルーシブな環境とは —アート活動の目指す先へ—

キャリアコンサルタント・保育士・日本応用心理学会認定応用心理士 増田 実菜

はじめに自己紹介をさせていただきます。

私は、保育関係者向けの研修や保護者向けセミナーでお話をさせて頂いたり、子育てコラムを執筆したり、子どもたちと素材をつなぐ活動をしたりと、ヒト・モノ・コトの環境をつなぐ仕事をしています。就労支援B型事業所との協働では、積み木の企画・監修、親子の場づくりや企画展示など、障がいのある方とチームとなってクリエイティブなものづくりと場づくりを行っています。

スマートキッズでは子どもたちの共同画のプロジェクトを積極的に行なっているということで、ご縁あって寄稿させて頂くことになりました。

私の小さな実践の積み重ねや現場からの声をお伝えすることで、皆様のお役に立つことが出来たら幸いです。

以前、こんなことがありました。

施設の皆さんと自由に塗料を使って活動をしていた時に、3名で色塗りをしていたグループが、自然と共同画の活動に展開したことがありました。最初は一枚の板の上で、それぞれがそれぞれのエリアに自由に描いていたのですが、途中から相手のエリアに筆を運び始めました。1人の方が、「ごめんね、ごめんね。」と言いながら、他の方の絵を塗りつぶしていきます。喧嘩になってしまふのでは、と一瞬ドキリとしたのですが、「いいよ、大丈夫だよ。」との行為を許容している周りの方の姿がありました。

そうやって何層にも重なり合っていく色には、譲り合いから生まれた独特の美しさがあるように思えて、平等や公平という言葉では生まれない共同画の意義を感じました。

利用者さん同士の素敵なコミュニケーションから、私が気づきをもらった瞬間でした。

社会心理学における集団内で起きうる効果として、「社会的促進」や「社会的抑制」があります。「社会的促進」とは、1人するよりも他者と一緒に取り組むことで課題が促進されることです。「社会的抑制」とは、集団にいると本来なら発揮できるはずの個人の能力が生かされなくなることを指します。つまり、集団の活動には、まったく正反対の効果が作用する可能性を秘めていることがわかります。いずれにしても、私たち人間が、どれほど人に敏感で、人からの影響を受けやすいかを表しているのだと考えられます。

良い効果を導き出すことこそが、近くにいる大人の役割なのかもしれません。

子どもと子どもにかかわる大人との関係性は、遊びや造形活動において、相互作用の中で美の追求をしているようにも思えます。子どもの姿を観察することで子どもの想いに気付き、共感すること。温かい言葉で肯定し、よりよい経験を保障することは、子どもの美的感覚や審美的側面の発達を促すことにもつながるのだと感じます。



「正解がない」ということが、アート活動の良いところです。支援者は、美術教育の専門家でない限り、その美しさに関する評価をする立場にないことについても知っておくべきかと思います。良かれと思って指導しすぎてしまうことは、時に正しい美しさから離れてしまう可能性もあるのですね。

美しさに関する感性は、人によって違います。だからこそ身近な大人は、「できた、できない」「はやい、おそい」「美しく見える、見えない」など、表面を見つめるのではなく、「どんな気持ちでこの線を描いたのかな」「どこにこだわって仕上げたのかな」というように、心を観察するようにしたいですね。「楽しかった！」「気持ちが伝わった！」その想いこそが、アート活動の根幹を支えるのだと思います。

幼児教育における5領域には「健康・人間関係・環境・言葉・表現」があります。ここでいう「表現」とは、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすること」です。小学校の図画工作科では、学習内容を「表現」の中に「造形遊び」があります。「造形遊び」では、「児童が自ら材料や場所などに働きかけ、そこから発想していく」ことに重点が置かれています。

大切なことは、活動を支える人たちが、アート活動が持つ力や可能性について正しく理解し、「よりよい環境」をつくることなのかもしれません。

そして何よりも、かかわる人たちがその活動を「共に楽しむ」こと。

大人と子どもが共に育ち合いながら、皆が笑顔になる環境をつくっていきましょう。



#### <プロフィール>

**増田 実菜 キャリアコンサルタント・保育士・日本応用心理学会認定応用心理士**

保育者養成に関するキャリアを重ねて、保育現場向けの研修やセミナー、保護者向け子育て講座、子育てコラム執筆、子どもに関わるイベントの企画監修など、保育と子育て力を高めるために活動している。

就労支援 B 型事業所との協働プロジェクトにも尽力、木育×福祉×環境をテーマにしたキヨウイクデザイン監修の親子をつなぐプロジェクト「木がつむぐ間の環境」でウッドデザイン賞2024を受賞。チームメンバーとして参画した福祉×民藝を目指して企画開発したプロダクト「IROMADO」は、国際的デザイン賞 A' Design Award 2025のアクセシビリティ、支援技術、インクルーシブデザイン部門においてIron A' Design Awardを受賞。

2024年10月に一般社団法人ミスクを設立。和紙を中心に、教育・福祉・芸術など多方面とつながり、伝統と文化を拡張する活動を行っている。日本応用心理学会認定応用心理士・キャリアコンサルタント・保育士。